

## 事業進捗状況評価表に対する意見質問等について

## ○ 事業進捗状況評価表1 (1ページ)

ページ数	番号	意見質問等			事務局コメント
		質問	意見	委員名	
1	2~4	待機児童数の増加に関連して、子育て世代の転入過多はありますか。	転入過多が著しいようであれば、転入による増を考慮しなければならず、必要施設の予測がより難しい。	飯嶋	子育て世代は転入件数より転出件数が多い(資料51参照)。
	2		3歳以上の保育についてはすでに供給過剰になっています。3歳からの預け先にスムーズに移行できるを整えて(施設の確保だけでなく利用者負担も)、0-2歳対象の保育施設、あるいは認定子ども園を増やす方向性が現実的なのかもしれません。	沢村	—
	3、4	保育の確保数は、推計人口をベースにしていたと思います。「平成28年度進捗状況」の乖離の原因として就学前児童人口が見込みより多いことがあげられていますが、計画p41の推計人口と実際の人口は実際どのくらいの乖離があるのでしょうか。数値でお示しいただきたいと思います。	計画p41の推計人口では0歳人口が平成25年をピークに、1-2歳人口が平成27年をピークに減少に転じるという前提でした。実際はそうならないことが乖離の根本にあるのではないかと推察します。平成28年度までの実際の人口推移を伸ばすなどして前提となる推計人口を修正した上で必要数の再検討をする必要があると思います。	沢村	児童人口推計の実績と推計の乖離については資料52参照。 児童人口推計については現計画の計画変更時に見直すことを予定している。
	3、4	保育利用率が0歳、1-2歳とも計画より実績で減っています。これは、計画時の保育利用率がニーズ調査におけるニーズを用いた値で、実績の保育利用率が実際の利用者数の数値を用いた(つまり保育園に入ることができた人しかカウントしていない)からでしょうか？		沢村	保育利用率とは、満3歳未満の子どもの数全体に占める、保育所等の利用定員数の割合(= 確保の内容の値 ÷ 年齢別児童数)。保育利用率の実績が計画より低い理由としては、保育所等の施設確保数(分子部分)が計画より少なく、児童数(分母部分)が計画より多いから。

○ 事業進捗状況評価表2 (2~5ページ)

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等			事務局コメント
				質問	意見	委員名	
2	1	利用者支援事業	保育課	入所相談支援員の活動について、保育課はどのように把握されておりますか？		岩野	現在2名配置している入所相談支援員については、保育ニーズが一層高まる中、保育園入所についての窓口相談・電話相談を日々行っており、長時間お待たせすることなく相談を受けれていると評価している。 その一方で、非常勤嘱託職員(事務)であることによる専門的相談という部分でのスキルの向上が課題と認識している。 なお、入所相談支援員による相談・受付件数については把握していない。
					入所相談の実施について、日中働いている方のために夜間受付も行ったほうが良いかと思えます。	岩野	現在、夜間窓口や休日窓口を設けていないため、検討する。
4	9	病児保育事業、子育て援助活動支援事業(病児・緊急対応強化事業)	保育課		利用者の少なさは、施設の所在地と利用できる方が限定されているのが、その理由のひとつとして挙げられるかと思われます。病児保育事業の拡充を求めます。	岩野	平成25年から事業を開始し、年々利用者が増えていく。事業の必要性は感じているところであり、事業拡充を検討。

○ 事業進捗状況評価表3 (6～29ページ)

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等			事務局コメント	
				質問	意見			委員名
					事業実績評価についての意見 ※平成27年度進捗状況にある「事業実績自己評価」と異なる評価をすべきとお考えの場合は、具体的な評価(S～D)も記載	その他意見		
6	1	子どもの権利の普及	児童青少年課		評価はAで良いと思います。	新しいパンフレットが各家庭に学校から配られています。いつも配られただけで、他のお便りと同じです。指導室にも関わってもらい、学校で子どもに人権に関する、例えば出前授業のような機会が作れると良いと思います。	小幡	—
				H23～27まで同じ評価内容となっている理由は。			新保	パンフレットの形状・内容等はH26・27年度に見直しを行っているが、広報の手法は同じであるため、同じ評価となっている。
6	2	子どもオンブズパーソン	児童青少年課	評価の理由に「近隣市の状況も参考に」とありますが、実際の状況はどのようになっているのでしょうか？			小幡	多摩26市において導入事例はなく、都内でも3区のみが設置している状況。子ども・若者育成支援推進法の総合支援事業に含める方向で模索する動きもあるようである。
6	3	子どもの人権講座	公民館		参加者数がH26・97人→H27・160人と63人増加している。 B→A		新保	—
7	2	子どもの公共施設の利用	生涯学習課	参加人数がH26・36,689人→H27・47,950人と11,261人増えているが、H27評価理由で「利用者数もほぼ横ばい傾向」と記載されている。数に間違いはないのか。このままだとA→S評価			新保	大変申し訳ない。コメントを次のとおり訂正させていただきます。 「利用者数増加の理由として、プール、卓球、バドミントンの利用の増加、また、指定管理者自主事業(プール教室等)の生徒数が増加が見られる。」 ※事業進捗状況評価表を上記のとおり修正した。

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等		委員名	事務局コメント	
				質問	意見			
					事業実績評価についての意見 ※平成27年度進捗状況にある「事業実績自己評価」と異なる評価をすべきとお考えの場合は、具体的な評価(S~D)も記載			その他意見
8	1	虐待対応事業	子育て支援課		評価はBで良いと思います。	評価方法が協議会の開催回数なので、26年度から同じくBとのことですが、本来、協議会の開催回数では測りきれない事業だと思います。対応困難なケースが増えているという一文に現場のご苦労が伺えます。	小幡	虐待対応については、要保護児童対策地域協議会のネットワークの中で対応。このネットワークの構成機関については、公的機関・民間子育て関連施設も所属しているが、まだ十分でない点もあるため、評価Bとしている。個人情報を扱うため構成機関についても慎重に連携を行う必要があると考える。
					前回会議の点検・評価ではA評価をしている子どもの命を守る事業。 A評価			
8	2	虐待防止啓発事業	子育て支援課		前回会議の点検・評価ではA評価をしている子どもの命を守る事業。 A評価		新保	11月が虐待防止月間。引き続き、月間に併せ啓発事業を実施
9	1	子どもの体験事業	公民館			H27評価の理由に「…は微減だったが、親子で楽しみながら作る喜びを体験できた」とあり、事業の充実が伝わる。評価したい。	新保	—
11	2	移動児童館(わんぱく号)	児童青少年課		評価はBではなく、Aで良いのではないのでしょうか？	評価方法は参加人数とのことで、26年度392人/8回、27年度532人/7回と140人ほど増加しています。ボランティア人数も増えているようですし、何故Bなのでしょう？	小幡	屋外事業のため、天候によって左右されることがあるが、前年度と比較して人数は増加しているため、今年度は評価をAとする。 ※事業進捗状況評価表をA評価に修正した。
11	4	放課後子どもプラン	生涯学習課			放課後子どもプランについては、一体型の学童保育や、学童保育の全入の課題解決のため、拡充が求められる事業かと思われます。	岩野	—

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等			事務局コメント	
				質問	意見			委員名
					事業実績評価についての意見 ※平成27年度進捗状況にある「事業実績自己評価」と異なる評価をすべきとお考えの場合は、具体的な評価(S~D)も記載	その他意見		
12	1~4	1 愛育手当 (子育て支援課) 2 私立幼稚園等保護者助成 (子育て支援課) 3 保育室等保護者助成 (保育課) 4 小金井市修学援助(奨学資金) (庶務課)		評価表に手当や助成額を掲載しないのは、何か理由があるのでしょうか。			岩野	理由がないことから、金額を記載する。 ※事業進捗状況評価表を修正した。
12	3	保育室等保護者助成金	保育課	利用者負担に関する答申の通り認可の保育料が増えた場合、現行の助成金を給付すると認可外のほうが逆に安くなるケースが出てくると思います。このようなケースをどう処理する予定でしょうか。		上記1の意見と関連しますが、預け先の施設を変えた場合に保育料が変わるというのは保護者にとって選択肢を狭めますし、公平性を欠きます。助成金を現行の定額給付の形ではなく、認可の保育料との差額を給付する形に代えるべきだと思います。	沢村	認可外施設の方が保育料が高くなればならないということではなく、それらも含めての選択肢であるため、特段処理をすることはない。
12	4	小金井市修学援助(奨学資金)	庶務課	貸与ではなく支給の資金で、小金井市としてかなり頑張っている事業だと評価しています。評価の理由に「国が給付型奨学金制度の方針を示し…」とありますが、国の奨学金制度との兼ね合いはどのようにしていくのでしょうか？	評価はBで良いと思います。		小幡	奨学資金については、国や他市の状況を考慮し、奨学資金運営委員会にて検討を進める。
					A評価	前回会議の点検評価でA評価	新保	
13	4	母子保健健康相談事業	健康課		25年度まではA評価。数は増加しているのに26年度からB評価になっている。27年度の評価で「育児相談ができる場所として定着してきている」とある。 B→A		新保	保健センター会場は来所人数が増加傾向にあり、より多くの来所者の育児相談に対応していけるよう相談体制の充実を検討していく必要がある。今後は妊婦の相談にも対応するなど、より幅広い層に周知し、参加者の満足度を向上させていく必要があるため、Bとした。

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等			事務局コメント	
				質問	意見			委員名
					事業実績評価についての意見 ※平成27年度進捗状況にある「事業実績自己評価」と異なる評価をすべきとお考えの場合は、具体的な評価(S~D)も記載	その他意見		
14	9	子育て中の保護者グループ相談	子育て支援課		25年度まではA評価。26年度からB評価。参加者は少し減っているが、このような場の設定は大事な事業。 B→A		新保	参加人数の減少でB評価としたが、子育て世代のニーズは高い事業であり、支援側も必要な事業と考えている。
15	2	子ども家庭支援センター(ゆりかご)事業	子育て支援課		利用人数、アクセス数、登録者数ともに増加している。 B→A		新保	一時期利用者数が減少したことでB評価としたが、昨年度は前年度に比べると増加が見られる。
15	6	思春期相談(子育て支援課)	子育て支援課	評価方法が「相談件数」となっていますが、子育て支援課/子ども家庭支援センターの相談件数の記入がありません。			小幡	小学生以上の相談実件数 224件(前年度からの継続者も含む) ※事業進捗状況評価表を修正した。
15	6	思春期相談(指導室)	指導室		評価はAで良いと思います。	小中学校での思春期相談について、評価の理由にある通り、SSC、SSW、関係機関が連携して支援に取り組むことがとても大切です。今後お願いします。	小幡	—
16	8	子育て講座の開催(生涯学習)	生涯学習課	評価の理由に「思春期子育て講座」の評価はA、「家庭教育学級」の評価はBとありますが、2つの事業のうち1つが評価Bであることから、事業全体の評価もBということではよろしいのでしょうか？			小幡	思春期子育て講座はB、家庭教育学級はAの間違い。思春期子育て講座は12回しか開催できなかったためB評価とした。従って事業全体の評価もBとした。 ※事業進捗状況評価表を上記のとおり修正した。
19	4	認可保育所での障がい児保育	保育課			拡充の面からは、民間保育園の実施園が増えているので、評価をAとするかどうか、全体から考えると迷う所です。幼い時に障がいのあるなしに関わらず、同じ場で生活する経験があることは子どもの育ちのうえでもとても大切なことだと思います。	小幡	—

ページ数	番号	事業名称	担当課	意見質問等			事務局コメント	
				質問	意見			委員名
					事業実績評価についての意見 ※平成27年度進捗状況にある「事業実績自己評価」と異なる評価をすべきとお考えの場合は、具体的な評価(S~D)も記載	その他意見		
19	5	学童保育での障がい児保育	児童青少年課			評価の理由にある通り、「本市では障がいのある児童の入所は4年生まで」「対応を検討する必要がある」とあります。ぜひ検討をお願い致します。	小幡	—
19	7	児童発達支援センター事業	自立生活支援課		評価はAで良いと思います。	周知の結果、利用者数は増加して、その必要性が現れていると思います。一方、児童が生活の場として多くの時間を過ごす学校との連携がもっと進むことを期待します。	小幡	学校との連携については、教育委員会による特別支援教育等の研修に児童発達支援センターの職員が出席し、情報共有を含む連携を行っている。今後も学校及び教育委員会と、より一層連携を進める。
22	3	スクールソーシャルワーカーの派遣	指導室		評価はAで良いと思います。	件数は減ってはいるものの、個々のケースは継続するものもあり、SSWが中心となって学校やその他の機関とのパイプ役として非常に大切な役目を負っています。26年度3名から1名増えましたが、さらなる増員が待たれています。	小幡	—
23	8	特別支援教育	指導室		評価はAで良いと思います。	評価の方法として、研修会・推進委員・巡回相談・専門相談の実施回数とあるので、評価は問題ないと思います。しかしながら、特に普通学級の授業内支援を必要とする児童生徒にはまだ手は足りていません。学校現場に於ける合理的配慮の面からも、支援者の育成や配置が必要です。	小幡	—
27	2	子育てグループへの活動支援	子育て支援課		評価はAで良いと思います。	会場の提供等の提供、職員の方の出席以外にも、色々運営面でも相談に乗っていただいています。	小幡	地域組織化事業の一環として、親子ひろばゆりかごで対応。